

「JM1」、「JM7」の接ぎ木挿しによるりんごわい性苗木短期育成法

りんご新しい性台木「JM1」「JM7」は、穂品種を接ぎ木して挿し木を行う「接ぎ木挿し」により、りんごわい性苗木の短期育成が可能となる。

表1 りんごわい性台木「JM1」、「JM7」を用いた接ぎ木挿し法

管理法	技術内容
挿し床	被覆資材は黒または白黒のポリマルチを用いる
挿し木	挿し木の時期は4月上旬とする 挿し木直前に、インドール酪酸液剤（サバロ液剤）4倍液で挿し穂を瞬間浸漬 挿し木後、台木部腋芽から発生する新梢は5月下旬以降順次かき取る
肥培管理	6月中旬に10㎡当たりチッソ成分10kg相当の追肥を行う



図1 挿し木直前の調整済み穂木

台木を40cmに調整し、頂部(左)に穂品種を接ぎ木し、下部(右)をナイフで切り返す。



図2 挿し木直後

挿し木間隔を20×15cmとし、台木部40cmのうち20cmを床土へ垂直に挿す。



図3 完成した苗木
挿し木後約半年で定植
定植可能な苗木となる。